

5. 広報相談に関する取組

若年層や子育て世代を対象に、財務省や金融庁の施策を、予算編成シミュレーションのグループワークや生活に役立つマネー講座など、分かりやすい形で情報発信しています。

子育て世代向け広報の連携

- 初めて地方公共団体・ハローワークと連携して、「保育士・幼稚園教諭合同就職面接・説明会」において、子育て世代向け「マネー講座」を実施。
- 聴講していた参加団体からも別途依頼があり、「出前講座」を波及して開催。

概要

- 「保育士・幼稚園教諭合同就職面接・説明会」は、市内にある保育園・幼稚園、児童館等の担当者が各々のブースにおいて、個別に業務や就労条件を説明するもの。
- 北海道財務局は、参加者に対して、「ママさんのためのマネー講座」を実施。消費税率引上げに関する説明のほか、「配偶者控除の拡大」や「年収の壁」など、子育て世代の働き方に役立つ話を紹介。個別相談の時間も設けた。

保育士・幼稚園教諭合同就職面接・説明会(千歳市・令和元年9月29日)



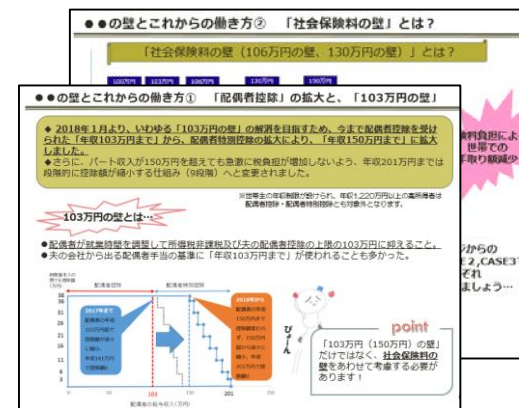
保育園・幼稚園の相談ブース中央に講座会場を設置



これからの働き方を真剣に悩むママさんから相談

取組の成果

- 同説明会において、当講座を聴講していた児童館等の担当者から「児童館・学童クラブでも職員のために同様の勉強会を実施して欲しい」との依頼があり、後日、波及して講座を開催した。
- 同担当者からは、当講座の内容は、児童館等を運営するうえで、職員に普及したい知識との評価いただき、翌年度も講座の実施依頼を受けている。



マネー講座資料



児童館・学童クラブ職員向け講座(千歳市・令和元年10月30日)

毎回好評の個別相談

独立行政法人造幣局との連携による広報活動の拡充

- 親子でお金の大切さを知ってもらうために、独立行政法人造幣局さいたま支局と連携し、石川県野々市市において「おやこ教室」を開催。
- 金融リテラシーの向上を目的とした保護者向けの「マネー講座」なども開催。

概要

○開催日時等(小学生の冬休み期間を活用)

日 時：令和元年12月26日(木)

参加者：34組46名の親子

○プログラム

・前半(親子一緒)

造幣局の歴史や貨幣の製造過程を学習。

・後半(親子別々)

小学生：古銭を用いた貨幣当てゲームを実施。

保護者：北陸財務局職員によるライフプラン作成の必要性や教育資金の貯め方、NISA等を紹介する「マネー講座」を開催。併せて、「日本の財政の現状」について解説。

- 財政融資資金を活用して整備された身近な施設を紹介するパネル展も同時開催。



案内チラシ
(市内全校に配付)

取組の成果

○参加者の声

- 1円足りなくても欲しいものが買えない。1円玉も大切にしたい(小学生)。
- 今後も子供のイベントとセットで聞ける機会があれば、ぜひ参加したい(保護者)。



古銭に触れる子どもたち



「マネー講座」の様子



パネル展等

○今後の展望

- 定員を超える応募があり、好評を得たことから、今後もこうした関係機関とのコラボ開催を他の地域にも展開していく。

担当教諭との協働による財政教育プログラムの新たな展開

- ・ 財政教育プログラムは、子どもたちに日本の将来についての意識を高めてもらう出張授業として広がりが見られるなか、さらに深い「気づき」・「考察」に導くような授業の要望もあるところ
- ・ こうした要望に応えるため、同プログラムに理解のある担当教諭と協議し、新たな授業プランを策定(静岡県内の高等学校2校で実施)

概要

▶問題意識

- ・ 国の借金を将来世代が負担することへの不公平感の軽減
- ・ 日本の素晴らしさを財政を通じて伝えたい

⇒現在と過去の財政を対比させることで達成できないか

▶授業プラン(富士市立高等学校の例)

- ・ 全16コマの授業を担当教諭と分担(財務局は5コマを担当)
- ・ 現在→過去→未来の順で財政を考える流れで構成

①現在(財政を知る)

- ↓
- ・ 通常の財政教育プログラムを実施
- ・ 財政の現状、課題を認識

②過去(過去を知る)

- ↓
- ・ 前回東京オリンピック(1964年)の時代背景や予算等を考察

③未来(2020年度予算を考える)

- ・ 過去を踏まえた「将来ビジョン」を作成・発表
- ・ 将来ビジョンに基づく2020年度予算案を作成・発表



「将来ビジョン」発表の様子

取組の成果(生徒の声)

▶富士市立高等学校(3年生79名)

- ・ 「新幹線や高速道路、社会保障など、今は普通にあるものが過去の努力によって整備されたことを知った」
- ・ 「過去の日本も多くの課題を抱え、解決に必死だったことが分かった」



グループワークの様子

▶静岡県立駿河総合高等学校(3年生43名)

- ・ 「過去を知れば知るほど、今の財政は良く考えられていると思った」
- ・ 「若者対高齢者にならないように必死にプランを考えた」



予算案発表の様子

今後の課題

- ・ 内容を充実させつつ、より効果的・効率的な授業に向けた協議を引き続きお願いしたい(担当教諭)
- ・ 生徒の学びの深さに対応できるよう、財政知識など自身のスキルアップを図っていきたい(若手スタッフ)